

2021年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
映像リテラシーE 1											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	馬場 定雄			実務経験	有	職種	映像演出				
授業概要											
映像技術が目まぐるしく変化する現代に映画・テレビ・ネット配信にとどまらない色々な映像機器の種類を学び今後の 5 G 時代に向けて映像作品を制作する上での基礎技術力を取得。											
到達目標											
これまで学習して来た映像技術をさらに一段階あげ最新の映像制作における映像技術の知識や様々な製作プロセスを理解し総合的な技術力の総仕上げとする。											
授業方法											
この授業では、現代までの映像技術から最新の技術までのハードウェア及びソフトウェアの知識を学びその知識を元に想像力・発想力を膨らませ最終的には個々の技術力の向上を伸ばすことが目的である。この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。											
成績評価方法											
試験・課題 80% 試験と課題を総合的に評価 レポート 10% 授業内容の理解度を確認するために実施 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価											
履修上の注意											
キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。社会の動きや大学生の状況などを概説するので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。ただし、授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
毎回レジュメ・資料を配布する。映像素材、参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	TVスタジオ、サブ、マスター、放送バンク、CMバンク、VTR室、送出、放送局の仕組みを学ぶ										
第2回	JPPA試験対策 1										
第3回	JPPA試験対策 2										
第4回	地上波、ワンセグ放送、BS、CS、CATV、ネット、日本のテレビ放送										
第5回	C S の仕組み1										
第6回	C S の仕組み2										

2021年度 日本工学院専門学校	
放送芸術科	
映像リテラシーE 1	
第7回	C S の仕組み3/5Gと放送
第8回	視聴率の仕組みと今までの質疑応答
第9回	クレーン、レール、steadyCAM、シンバルカム、特殊撮影機器について 1
第10回	スカイカム、スパイダーカム、ドローン、ジンバルカメラ、特殊撮影機器について 2
第11回	カメラとレンズの種類
第12回	ブラウン管、プラズマ、液晶、有機ELの概要とHDR
第13回	色々な編集機・合成機
第14回	系統図の見方・書き方
第15回	色々なファイル形式、記録媒体と全体のまとめ、試験